

Teaching grammar in second language classrooms:

Integrating form-focused instruction in communicative context.

Chapter7 Focus on Grammar through Collaborative Output Tasks

Theoretical Rationale

- ・ Collaborative output task は学習者に意味・文法形式の双方に注意を向けることのできる実行可能なタスクによって、強制的にアウトプットを促すことを目標にしたタスクである。

Output hypothesis

Definition: the hypothesis that successful second language acquisition requires not only comprehensible input, but also comprehensible output, language produced by the learner that can be understood by other speakers of the language. It has been argued that when learners have to make efforts to ensure that their messages are communicated (pushed output) this puts them in a better position to notice the gap between their productions and those of proficient speakers, fostering acquisition. (Longman Dictionary of Language Teaching & Applied Linguistics, 2002)

Input hypothesis vs. Output hypothesis

- ・ 単に意味のあるコンテンツに触れるだけでは文法的な正確さを身に着けるには不十分である(e.g., Harley & Swain, 1984; Lapkin, Hart, & Swain, 1991; Swain, 1985, 1993)
- ・ 長期間理解可能なインプットを受けた生徒といえども、L2 のある側面の観点で不十分なパフォーマンスだった。→Swain は十分なプロダクション活動がなかったためと主張

Swain(1993)では L2 習得における 3つのアウトプットの機能を区別している

- 1) **a noticing (triggering) function**: 目標言語の規則と自分の言語規制の間にギャップがあることに気づくことができる。つまり、自分の第二言語知識では伝えたいけれど十分に伝えられないことがあることを認識できる。これによって学習者の注意がインプットに含まれる関連項目へ向けられる可能性が高くなる。
- 2) **a hypothesis testing function**: 自分の規則(仮説)の正しさを検証することができる。規則に基づいて発話すれば、何らかのフィードバックが得られ、自分の仮説を確認、修正、もしくは棄却することができる。
- 3) **a metalinguistic function**: 目標言語の構造的特徴について意識的・分析的に考えることができる。つまり、ある意味をアウトプットとして言語化するためにはどのような言語形式を用いるべきなのかを理解することができ、形式と意味の関係を明確に把握することができる。

(応用言語学辞典、pp166-167)

Sociocultural perspective

- ・ Collaborative output task の L2 教室におけるアクティビティの活用は、L2 学習の構成主義観点から

支持されている。

- ・ 社会文化的観点は Vygotsky (1978, 1986)によって概念化されており、Vygotsky の sociocultural theory の中心的概念の中で、1) ZPG (zone of proximal development)、2) scaffolding、3) notion of regulation が挙げられる。

ZPG (zone of proximal development)

Definition: in socio-cultural theory, the distance between what a learner can do by himself or herself and what he or she can do with guidance from a teacher or a more capable peer... (Longman Dictionary of Language Teaching & Applied Linguistics, 2002 p. 595)

- ・ ZPD は学習者にとって、共同作業は何ができるようになるのか学ぶことができるようになる、というより高次の発達へ向かわせる役割がある。

Scaffolding

Scaffolding は学習者が共同作業中に受け取るアドバイスやフィードバックを通じた支援環境の作成である。(Donato, 1994).

- ・ 他の学習者と協力することで、学習者は独力で習得することができていないものを習得できる。

Notion of regulation

- ・ Vygotsky は、学習は社会的なプロセスから self-regulation への object-regulation と other-regulation への移行プロセスであるとしている。object-regulation は学習者の振る舞いが彼らの環境によってコントロールされる段階、other-regulation は目的に応じていくらか対応できる段階であるが、まだ他社の助けを必要とする段階、self-regulation は自発的にふるまうことができるよう、熟練した段階である。
- ・ Sociocultural theory は言語学習の過程における共同作業と interaction の重要性を強調している。その観点から、共同的な interaction は言語学習の手段になる。

Collaborative Output tasks

Dictogloss

生徒同士協力し合い、口頭で提示された文章を再構成することタスク。このタスクは生徒の発話を促すだけでなく、形式や意味についても話し合うことを促す。

手順

1. **The preparatory stage** : タスクの目的を伝え、何をするのか予想させる。ウォームアップとしてテキストのトピック、内容、説明、知らない語彙などについて討論をさせる。
2. **The dictation stage** : 教員は文章を **2度、通常のペース**で読む。生徒は1度目の音読を注意深く聞き、2度目の音読で重要語や内容に関連する考えなどのメモをとるように指示。
3. **The reconstruction stage** : 少人数のグループで自分たちの取ったノートを利用してできる限り正確に文章を再構築する。その際に生徒は学習言語を用いて L2 の正確さについて話し合う。教員はその

間アクティビティの監視やフィードバックを与えることである。

4. **The analysis and correction stage** : 再構成された文章をオリジナルの文章と比較し分析する。生徒・教員が共同で文章を修正する。

どのレベルの学習者にも利用できる。文章は十分考慮されたうえで選ばなければならない。タスク中、文章は2度読むことが望まれるが、学習者のレベルによって適宜増やすことで効果が向上するだろう。

Reconstruction Cloze Task

基本的には Dictogloss と同様のタスクだが、Cloze を入れたワークシートを用い、同様の作業を行うことで学習目的の文法構造について効率的に学ぶことができる。

手順

1. 教員はオリジナルの文章を通常のペースで読む。
2. 生徒はテキストの意味を注意深く聞き、内容に関することをメモ書きする。
3. 穴あきテキストのワークシートを配布する。
4. 生徒はペアになってかけた語・句について情報交換を行い、できる限りオリジナルの文章に近く、正しい文章を再構築する。
5. オリジナルのテキストと回答を比較し、違う部分についてディスカッションを行う。

Text-editing Tasks

このタスクは学習者にテキストの内容の表現や正確さの向上のために修正作業を行うタスクである。他の Collaborative output task と異なり、このタスクは個人で行うこともできる。

手順

1. 教員が target forms を含む文章を読み、生徒に listening comprehension check を行う。
2. 誤りを含むタスク用の文章が書かれたワークシートを配布する。
3. 生徒は協力し、できるだけ文法的に正しいテキストを作成する。

Collaborative Output Jigsaw Tasks

- Jigsaw task はタスクに関係した異なる情報を用いた 2 方向性の information gap タスクである。生徒同士、異なる課題をシェア、交換し合うことでタスクを完成させる。Kanagy and Falodun (1993)は、jigsaw task は目的のはっきりしたものであるべき、かつ、意味についての話し合いを生成させるべきであるとしている。
- Sauro(2006)によるこのタスクの作成手順：授業に関連する内容、もしくは生徒にとって信憑性のあるテキストを選び、オリジナルの一節を含む文章をそれぞれ Ver. A、Ver. B のように分け、2つワークシートを用意する。この際、ワークシートの文章は、オリジナルの文章と形式や語順を変えるなど修正する。

手順

1. 教師はオリジナルのテキストを音読する
2. ペアになった生徒はそれぞれ異なるワークシート(Ver. A と Ver. B)を受け取る
3. 生徒は自分の受け取った文章を正しい順に修正する
4. 生徒は Ver. A と B で異なる文を選択し、元のテキストにあるような文法的な正確さの点で同じものを見つけるように試みる。また、回答の理由づけを行う。
5. 生徒は組み立てられた彼らのパッセージをオリジナルのパッセージと比較し、起こりうる違いを確認する

- ・ **Target forms** 除いた空所を jigsaw task 中に入れることで、学ばせたい文法形式を学ばせることができる。

Effectiveness of Collaborative Output Tasks

一般的にこれまでに研究されてきた collaborative output tasks は、形式への注意の促進と L2 の発達への望ましい効果が示されてきた。

- ・ Kowal and Swan (1994)は dictogloss のような collaborative output task は学習者の言語意識の促進が可能になるとしている。協力してテキストの再構成を行った中一上級者のフランス語学習者からデータを収集した結果、テキストの再構成をともに行った生徒は、彼らの言語のギャップに気づき、彼らの注意が形式と意味の間のつながりに向いたうえ、仲間からフィードバックを得ることができた。
- ・ LaPierre(1994)は Grade 8 の French immersion クラスで dictogloss を使った研究を行い、dictogloss タスク中にて学んだ言語形式とその後の発話において正の関係を発見した。
- ・ Nabei(1996)も同様の研究を行い同様の結果を得、形式、scaffolding、補正フィードバックへの注意する機会の促進を確認した。
- ・ Swain and Lapkin (2001)は dictogloss と jigsaw の効果の比較を行った。形式への注意という観点からは有意な差は認められなかったが、dictogloss は jigsaw よりさらに target form の正確な reproduction を導くことを発見した。
- ・ Pica et al. (2006)は 6 グループの intermediate-level の英語学習者に対する jigsaw task の効果について調査を行った。その結果、jigsaw task は学習者の言語形式への注意と target item の形式と機能の想起に効果があることを示した。
- ・ Nassaji and Tian (2010)は reconstruction cloze task と reconstruction editing task が英語における句動詞の学習に効果があることを観測した。

結論

全体的に、collaborative output tasks はタスク上、学習者の文法的正確性向上に有効である。